

平成 30 年度
豊田中学校
第 3 学年
学年通信

志を胸に、新たな一步を踏みだそう！

We want 優

真剣に集合 大きな声であいさつ 心遣い

3月19日
最終号 その1
文責 杉田 直樹

答辞

厳しい寒さの冬が終わりを告げ、僕たちの頭上には柔らかな光をたたえた空が広がっています。今日この良き日に、僕たちに百二十八名は、この豊田中学校を卒業いたします。

御来賓の皆様、諸先生方、在校生の皆さん、本日は、かくも盛大な卒業式を挙げてくださり、ありがとうございます。卒業生一同、感謝の気持ちでいっぱいです。

今、振り返ってみると、豊田中学校での日々は、僕たちを大きな成長に導く、価値ある時間でした。先輩方から渡されたバトンを引き継ぎ、最上級生となった四月から、僕たちが目指したもの、それは「We want 優」という学年目標です。一人一人必要とされる存在であること、素晴らしい可能性を秘めていることを信じ、他を思いやる優しさをもった集団へと成長できるようにという願いを現実のものにするための努力が始まりました。

夢や幸せをつかもうと、四葉のクローバー一枚一枚の葉っぱのように個性をもちつつ結束を固めた一組。眼前にそびえ立つ課題を最大限の努力で乗り越え、最高の高みを目指そうと、何事もやる気マックスで歩みを進めた二組。豊かな個性を最大限に輝かせ、体育大会・合唱コンクールの二冠を勝ち取った三組。ありがとうという言葉のもつ不思議な力を信じ、互いを思いやり認め合うことで総合力を高めた四組。

異なるカラーをもちながらも、それぞれが切磋琢磨し、影響し合うことで優しくもたくましい集団へと成長できたのではないかと思います。

僕たちの今をつくってくれたものは、それだけではありません。

「鉄人遠足」。三十二キロを歩く、長くて過酷な道のりの途中には、心が折れそうになるときが訪れます。そんなとき、傍らに友がいることが、大きな支えとなり、また励みでもありました。体力も気力も異なる者同士が、互いを気遣い、歩調を合わせたり声を掛け合ったりすることで、目標を達成できたという経験は、僕たちの団結力の礎となりました。初夏の明るい日差しの中、友と笑い合っただけで歩いたこと、時折吹く風が最高に気持ちよかったこと、弁当がとてもおいしかったこと、様々な瞬間が鮮やかに思い出されます。



「燃やせ絆の魂をつかみとれ頂点の座を」というスローガンの下、開催された体育大会。僕は、男女混合リレーのアンカーに抜擢されました。仲間から手渡されたバトンを手に走り始めた僕の背を後押ししてくれたもの、それは級友や先生からの声援でした。走っているのは僕自身のはずなのに、自分だけで走っているのではないという不思議な感覚に包まれ、見えない力が僕の身体をゴールまで運んでくれました。

学級の勝利を目指し、練習を積み重ねた「ムカデリレー」。何度転んだか分かりません。本番が近づくとつれ熱気を帯びる各クラスの練習。スピードに乗って走り抜けるライバルチームに焦りを感じながらも、転んでも前を向き、仲間を信じ、声を掛け合っただけで自分たちのムカデを作り上げていく過程はかけがえない時間であり、勝利以上の何かもっと大切なものを僕たちに気付かせてくれました。



裏へ続きます→

体育館に響いた、「親知らず子知らず」「はじまり」「ヒカリ」、そして「木琴」。感情移入の仕方に戸惑い、歌詞の表現する世界や思いを理解しようとした日々。複雑なハーモニーを自分たちのものにしようと、繰り返し歌った練習の数々。その一つ一つの積み重ねが、僕たちに大きな自信を与えてくれました。本番、ステージの上で「この瞬間を楽しもう。思い切り表現しよう。」と思えたのも、そうした努力と級友と築いた絆のお陰だと思えます。



舞台を彩ってくれた美術部の絵、中学校生活最後の合唱コンクールに並々ならぬ気迫をたたえ真剣な眼差しで歌う学年の仲間たちの姿、僕の脳裏には鮮明に焼き付いています。

部活動が僕たちに与えてくれたもの、それは、情熱であり、誇りであり、信頼です。立場や力量の違いから生じる意識の差、ばらばらになりそうになる互いの心。技術の伸び悩みなどに苦しむ辛い局面もたくさんありました。しかし、僕たちには、常に一丸となって果たしたい目標がありました。



磐周大会を間近に控えた時期、怪我をしたチームメイトが、「自分が練習できないのなら、チーム全体を底上げしよう」と広い視野でチーム状況を分析してアドバイスしてくれたことに、僕は力をもらいました。

とても暑かったこの夏、僕たちの部活動生活は終わりを迎えました。グラウンドで、コートで、ホールで汗や涙を流した日々は、生涯における大切な宝物となりました。

二年生の秋、先輩から引き継いだ給食委員長としての経験は、僕にとって挑戦でした。給食委員を経験したことがない僕が委員長という責任を担うことに、不安を感じました。顧問の先生方や用務員さんの御指導のお陰でやっと仕事分かり始めた僕が、次に考えたこと。それは、「委員全員が、同じレベルで頑張れる組織にする」ということでした。リーダーが「これやって」と頼むことは簡単です。しかし、それでは駄目だという気がして、僕自身が働く姿を示すこと、そして委員のみんなとコミュニケーションを積極的に取っていくことを心に誓いました。それらがどれだけ成功したかはわかりませんが、委員のみんなが、役割を自覚し、自ら気付いて動く集団となっていったことが心強く、嬉しかったです。そして、代が替わった今も、その精神が引き継がれていると聞き、大きなやりがいを感じるとともに、頼もしい気持ちがあります。



長いようで短かった三年間。僕たちがこの日を迎えるまでには、多くの挫折や失敗を積み重ねてきました。周りの人に心配や迷惑をかけたこともあったと思います。僕自身、うまくいかないことも多くありました。しかし、僕は、やらない後悔より、やる後悔をしようと心に決めています。先日、ある方からこんな言葉をいただきました。「失敗は、うまくできなかった例を学んだということだ。何度も失敗した上で成功した人は、得たものが多い。」というものです。この言葉に僕は力をもらいました。そして、この三年間に経験してきたことは、全て、これからの人生を歩んでいくのに生かしていけるものだと確信しました。

三年間、僕たちを、熱意をもって導いてくださった先生方、本当にありがとうございます。先生方の導きで築き上げた志や誉は、事を成すには欠かせない軸となるものです。しかし、志は心にしまい込んでいるだけでは志のままです。先生方は、その志を実現するための様々な知識や技能といった道具を、教育という形で僕たちに授けてくれました。

そして、保護者の皆さん。僕が、今こうしていられるのは、あなたたちの存在なくしてはあり得ません。いろいろと苦勞を掛けることもあったと思いますが、あなたたちの無償の愛によって、力強く前を向いて歩いていくことができます。本当にありがとう。

平成 30 年度
豊田中学校
第 3 学年
学年通信

志を胸に、新たな一步を踏みだそう!

We want 優

真剣に集合 大きな声であいさつ 心遣い

3月19日
最終号 その2
文責 杉田 直樹

そして、共に学校生活を送ったみんな。本当にありがとう。僕たちは、奇跡ともいえる不思議な縁で結ばれています。それぞれ異なる個性、異なる考えをもちながらも、互いのことを思いやることができる友をもてたこと、それは、僕の生きる活力にもなっています。

これからは、それぞれ別々の道を進んでいくことになりますが、この広い空の下、僕らは繋がっています。どこかで頑張っている友を思って、それぞれの進むべき未来を探していけたらいいと思います。



名残は尽きませんが、僕たちは今日、豊田中学校を巣立っていきます。在校生の皆さんには、僕たちが先輩から受け取ったバトンを託します。受け取ってください。これからの豊田中学校は、小中一体校に向けての新たな一步を踏み出す大切な時期を迎えます。来年度は、新校舎の建設も始まり、不便なことも増えるかもしれません。しかし、自分たちが進むべき道を見失わないでほしいと願っています。そして、これまで受け継がれてきた文化や伝統の上に、新たな歴史を築いてほしいと思います。応援しています。頑張ってください。

増え続ける自然災害や環境問題、国際化や情報化の波の中で変化し続ける社会。僕たちが歩んでいく未来には、多難なことも多いのかもしれませんが、しかし、この豊田中学校で学んだことを糧とし、世の中に対して自分が果たすべき役割は何か、成すべきことは何かを探究しながら、志を胸にたくましく未来を拓いていくことを誓います。

最後に、豊田中学校のますますの発展と皆様の御健康を祈りつつ、答辞といたします。

平成三十一年三月十九日
磐田市立豊田中学校

第十四回 卒業生代表 鈴木晴人

祝卒業



学年主任より

本日は、お子様のご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。保護者の皆様のお子様に対する愛情には到底かなうものではありませんし、たった一年間の期間ではありますが、私なりにこの子たちにできる限りの愛情を注いできたつもりです。百二十八名の三年生、本当に大好きです。今日こうして、子どもたちの成長した姿、巣立っていく姿を見ることができて、教師冥利に尽きる、幸せだと思っています。至らぬ点が多々あったと思いますが、どうぞ御容赦ください。

これまで、多大なる御支援と御協力をいただき、誠にありがとうございました。子どもたちと、皆様方が今後も幸福な人生を歩まれることを心から願っています。

第三学年 主任 杉田 直樹

【3月27日(水)送別式について】

卒業生は参加する義務はありませんが、異動される先生方の送別式に参加したいという場合は、次の注意事項を守って参加してください。

- 1 登校 8:30 直接体育館へ。(校舎内へは入らない)旧クラスで整列。先生方の指示に従う。
(体育館シューズ持参)
- 2 服装、身なりは、中学校の決まりに従う。異装、違髪の方は体育館へ入れません。
その場合、外で式が終わるのを待つことになります。

※送別式以降、先生方に会いに来る場合は、事前に連絡を入れ、校舎内に立ち入る場合は、事務室を訪れ、来校者証を受け取るなど、正しく手続きを行うようにしてください。